

慈眼寺だより

第1号
平成18年12月
春日井市下市場町

「慈眼寺」

電話 0568・81・6801

「あいさつ」

檀方総代 伊藤正

年の瀬も迫って参りました。

皆様ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素はお寺のことなど格段のご協力を賜り恐縮に存じております。

さて、私事になりますが今年は「肺癌」という病を体験いたしました。皆様のご参考にと筆を取ります。今まで私はきわめて健康でほとんど意のままに振舞って幸せを満喫していましたが、この夏

健康診断で肺癌が見つかりました。

一瞬にして真つ暗で地獄の日々と変貌してしまいました。以後、病院へ通いつめ、検査を繰り返した結果、左肺の中央部に径一四ミリほどの癌が確認されました。肺癌はほとんど不治の病といわれておりますし、手術後の五年生存率は一五パーセント位らしいです。いよいよこれは年貢の納め時かとも思われましたが、以前にテレビで見た「粒子線治療」というのを思い出し、色々資料を集めて市民病院の主治医の先生に相談いたしま

した。それは、放射線治療と似ておりますが、水素の原子核というものを、直接がん細胞にぶつけて破壊するもので、放射線のように副作用もなく、安全で成功率の高い方法です。ただ、大規模な設備

が必要なので、日本にはまだ四カ所しかこの治療をできるところがないうえ、癌の部位やら大きないろいろな条件をクリアする必要がありました。主治医の先生も、

こんな方法は初めてだということでしたが、よく研究してみようということ、兵庫県立の粒子線医療センターというところへ、紹介状を書いてもらいました。たくさん写真やら検査結果を携えて山陽新幹線の「相生」から更にバス

で四〇分、風光明媚な高原のホテルのようなところです。夕方までに検診を受け、持参した資料も点検してもらって翌日から入院することができました。

医師の「確実に癌は消滅させます。」の一言で、これまでにない喜びと安心感で世の中が明るくなりました。何の痛みも感じないような治療が二十三日間続きました。まさに命の洗濯をした思いです。

色々駄弁を羅列いたしました。色が、何でも簡単にはあきらめてはいけないことと、早期の診断が肝心ということを学びました。最後に、これから寒さも厳しくなります。ご健康には十分留意されてよい年をお迎えください。

近況

大野 悟

慈眼寺の落慶・晋山式から丸二年たちましたが皆様方におかれましてはご健勝のことと存じ上げます。

私も、皆様方のご支援の下お寺の整備を行ってまいりましたが、十七年には会計報告も済ませて整備委員会を解散いたしました。続いて下市場神明社の総代をお受けすることになりました。この二年間、年五回の行事と月二回のお宮の掃除を役員や子ども会のお母さん達と行っております。落ち葉の季節にはトラック2車にもなる量

で、伊藤定光さんの今までの苦勞がよく分かりました。

昨年からは整備委員会の役も終わり、気の緩みが出たせいか、二月には剪定をしていて靱帯損傷、八月には捻挫、今年の三月には頸椎ヘルニアと診断され散々な状態でしたが、九月になって、好きなゴルフをボツボツと始められるようになってきました。来年からは体調を整え、皆さんと一緒に慈眼寺のためにがんばってまいりたいと思っておりますので、応援をお願いいたします。

ご家族ともどもお元気で新しい年をお迎えください。

平成十九年度年忌表

年忌は次のとおりです。日取りが決まりましたら、お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	平成十八年
三回忌	平成十七年
七回忌	平成十三年
十三回忌	平成七年
十七回忌	平成三年
二十三回忌	昭和六十年
二十七回忌	昭和五十六年
三十三回忌	昭和五十年
三十七回忌	昭和四十六年
四十三回忌	昭和四十年
四十七回忌	昭和三十六年
五十回忌	昭和三十三年

各個別の年忌はホームページでも見られます。ご利用ください。

行事予定

○二月十一日 大般若会

正午から詠讃歌奉詠

午後一時から般若祈祷、法話

の会があります。

○二月十五日 涅槃会

十時から法要。

○四月八日 灌仏会

十時から法要。

甘茶をいただいでください。

○八月十八日 お施餓鬼

八時から。受付は七月一日から

はじめます。

棚経は八月十日くらいからです。

浅山以西名古屋 八月十二日

四ツ谷地区 八月十三日

下市場郷中 八月十四日

穴橋・篠木・高蔵寺・坂下ほか

八月十五日

雑感

住職 春日井浩道

私の子供のころまでは、このあたりはずっと田圃でした。家屋もほとんどが藁葺き屋根で、瓦屋根はほんの数えるほどでした。藁葺きといえは慈眼寺も昭和三〇年ころまでは本堂も含めて藁葺きでした。この景色は、たぶん江戸時代の中ごろからほとんど変わっていません。なかつたでしょう。変わったことといえは電気が引かれたことと井戸に手押しのポンプが付いたことくらいではなかつたでしょうか。電灯だつて当時は本堂に2灯、庫裏には3灯くらいしかありませんでした。60ワットの電球に長いコードをつけて隣の部屋と共同で

使用したものです。暖房などはせいぜい火鉢でした。これも最近はお目にかかりません。中には囲炉裏が掘つてあるお宅もあり、羨ましかつたものですが、どうもこれはお蚕様の暖房のためだつたようです。どこの家も隙間風だらけで寒かつたです。夏でも扇風機のあ

る家はまれで、ほとんどが団扇だけ。井戸で冷やしたスイカが何よりのものでした。ただ、水田を渡つてくる風は結構涼しくパンツ一枚なら何とか我慢できたものです（みんなそんな格好だつたのであまり気にならなかつたようです）。小川には食用になる鰻などもいましたし、シジミもびつくりすくらい沢山いました。

変化が目立ち始めたのは昭和三〇年代からでしょうか。南城橋も

それまでの流れ橋から木造ではあるが永久橋になり、自動車ですれ違えそうな道路が少しずつ整備されてきました。三〇年代の後半になると、このあたりでも自動車と電話が普及してきました。それまでリアカーしか入れなかつた道がいつの間にか自動車の幅まで踏み広げられたものでした。まあ、生垣ばかりだつたからそんな無理も通つたのでしょうか。それから後は、どんどん変わつていきました。時代は池田内閣の経済成長政策の実施されたときです。いつの間にか一万円くらいだつた初任給も十万円を超えるよう

になりました。経済の構造の変化に合せて、土地の景観も変わつていきます。それまでの農業共同体だつた村は通勤者の近郊住宅街に変わつていきました。その仕上げの作業が土地区画整理であつた

のでしょうか。生垣はコンクリートやアルミのフェンスに変わり通り抜けることはできません。かつて村に何組もあつた念仏講もいつの間になくなってしまいました。共同体は文字通り「区画」化されて、個々はますます孤立していくような危惧感を覚えます。時代にマツチした人と人とのつながりを、何とかして育んでいきたいと思ひます。よい知恵がありましたらお知らせください。

慈眼寺梅花講

曹洞宗には「梅花流」という詠

歌の会があります。梅花というのは

道元禅師の和歌にちなんでつけられ

たものです。多くの曹洞宗の寺院に

はそれぞれの「梅花講」があり活動

しています。慈眼寺にも「慈眼寺梅

花講」というのがあって、講員数約

三〇名で、定期的な練習会のほか、

各種の行事に参加したり、年に一回

の全国大会に出たりしています。お

もに仏教の教えに題材をとるものが

多いですが、最近南こうせつさん

の新曲も出るようになってきました。

ここで講員さんの募集をしています。

す。月三回くらいの練習になると思

います。皆で一緒におなかの底から

声を出して歌って見ませんか(慈眼寺

までお問い合わせください)。



管内大会（名古屋市民会館）

お仏膳受付中

平成十九年のお仏膳を受け付

けております。一膳一カ年千五

百円です。お下がりはお持ち

帰りいただいでください。

あとがき

暑さも遠のいたと思つたら、い

つしか木枯らしの季節になってしま

いました。皆様方にはご清栄のこと
とお喜び申し上げます。

これを書いている今日は十一月二

十八日で、本堂の棟上から丁度五年、

霜が真白に降りた凜とした日でした。

落慶・晋山式からは丁度二年、こち

らはとても暖かな穏やかな日でした。

この二年、何事もなく過ぎてい

うですが、身近なところでは総代の

伊藤忍氏がなくなりました。また総

理大臣も春日井市長もぐつと若返り、

確実に世の中変化が感じられます。

ミサイルや核実験をやらかしたどこ

かの国もそろそろ崩壊の兆しもある

ようです。

さて、以前に「慈眼寺整備便り」

という刊行物を出していましたがや

はり何か皆様方との情報伝達があれ

ばということ、このような「慈眼

寺だより」という形で年二回ほど出

すことになりました。尻をたく編

集委員さんがいなくなって心もとな

いですが、何とか続けられるよう努

力して参りたいと思います。少しで

も皆様方とのコミュニケーションに

役立てれば、と思っております。ご

意見、ご指導賜りますよう伏してお

願い申し

上げます。

最後に、

ご自愛の

上、新年を

迎えられ

ますよう

お願いい

たします。

「慈眼寺だより」 第1号

平成18年12月15日発行

ホームページ ↓

<http://www.ma.ccnw.ne.jp/jigenji/>